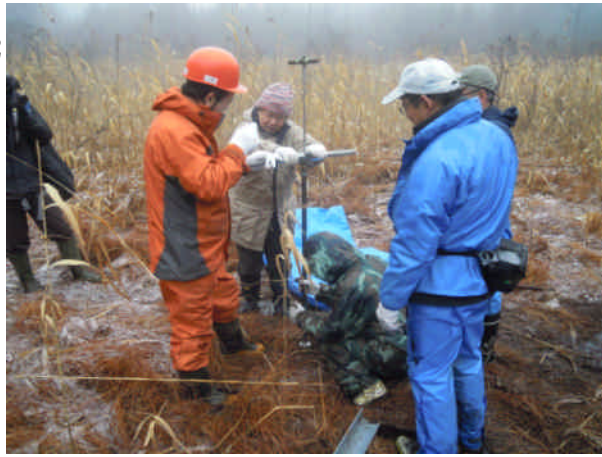


赤谷プロジェクト近況報告

南ヶ谷湿地の堆積物調査



ボーリング調査の様子

12月初旬、赤谷プロジェクトエリアにおける唯一の湿地・南ヶ谷湿地で、専門家やサポーターを交えて堆積物調査を行いました。この湿地には独特の昆虫類や植物が存在しており、地元の方によると、昔は用水池としても利用された大きな池だったとのことですが、過去40年で水面が5分の1以下に減少し、急速に乾燥化が進んでいます。その原因を探るため調査を実施しました。

調査は、ボーリングによって堆積物を採取し、泥炭層に堆積した土砂や花粉分析等を行っており、南ヶ谷湿地の成立年代や乾燥化の原因、植生の変遷などを探っていきたくと考えています。

企画運営会議の開催

12月7日(月)、みなかみ町中央公民館にて、平成21年度第1回赤谷プロジェクト企画運営会議が赤谷プロジェクト協働三者に加え、サポーター、県・みなかみ町関係者を交えて開催されました。

当日は、各ワーキンググループの活動状況の報告、関東森林管理局や利根沼田森林管理署から事業実行に関する提案・報告事項、赤谷プロジェクト地域協議会から旧猿ヶ京小学校



挨拶する地域協議会の岡村会長

の活用方法などについて説明があり、議論が進められました。特に、赤谷プロジェクトと地域との繋がりをもっと密接にする取組を充実していくことが肝要であるという意見が多く出ました。赤谷プロジェクトの目標には「持続的な地域づくり」がありますので、今後一層取り組みを進めていきたいと考えています。

「赤谷の森を語る会」の開催

赤谷プロジェクトが発足して今年度で6年目となり、これまでの成果を次期地域管理経営計画等に反映させるため、「赤谷の森構想(仮称)」を作成することとしています。

作成に当たっては、地域住民が身の回りの森林について、どのような思いや希望を持っているか聴き取る必要があるため、12月13日(日)、猿ヶ京において、地域住民約20名参加の下、「赤谷の森を語る会」を開催しました。

昭和30年代までは、林業や炭焼きを通じて森林と地域は密接に結びついていましたが、現在は燃料革命などの情勢変化によって希薄となつてい一方、環境教育やエコツアーリズムを通じた森林と地域との結びつきを再構築する芽も育ちつつあることが感じられました。今後は座談会等により、地域の方々



たくましく生きるイヌワシ親子(赤谷ノートより)

絵: 静岡森林管理署 平田美紗子

から、さらにきめ細かい意見を伺いたいと考えています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)



地域と森林との結びつきについて話し合い